

研究分野	資源生態	機関・部	水産総合研究所・資源管理部
研究事業名	日本海で急増したサワラを有効利用するための技術開発事業		
予算区分	受託研究((独)水産総合研究センター日本海区水産研究所)		
研究実施期間	H21～H23		
担当者	高橋 進吾		
協力・分担関係	日本海府県の水産試験研究機関 (京都府農林水産技術センター海洋センターほか9機関)		

〈目的〉

近年、日本海で急増したサワラについて、各地域での漁獲量や尾叉長組成等を調査し、日本海全域での分布回遊や成長・成熟状況等を解明する。

〈試験研究方法〉

1. 漁獲動向調査

日本海主要漁港(新深浦町漁協本所・岩崎支所、深浦漁協)における月別銘柄別漁獲量を調査した。銘柄は、体重1kg以上を「サワラ」、1kg未満を「サゴシ」とした。

2. 魚体測定調査

平成21年10月～平成22年1月に新深浦町漁協で主に定置網で水揚げされたサワラの尾叉長、体重、生殖腺重量等を調査した。

3. 標識放流調査

平成21年10月～平成22年1月に試験船青鵬丸を使用して曳釣りで釣獲したサワラの背部にスパゲティタグを貫通させて装着し船上から放流した。

〈結果の概要・要約〉

1. 漁獲動向調査

日本海主要漁港における平成21年の漁獲量は42トンで、前年比61%と減少した。月別では5月が21トンと最も多く、10月以降は「サゴシ」の割合が高かった(図1)。

2. 魚体測定調査

10月以降323尾を測定した。尾叉長は38.5～70.0cmの範囲で、40～50cm(0歳魚)と60～70cm(1歳魚)にモードがあった(図2)。体重では1kg未満と1.5～2.3kgにモードがあった(図3)。なお、各月ともほぼ同様の組成であった。

3. 標識放流調査

11～12月に計18尾(尾叉長38～70cm)の標識放流を行った。

〈主要成果の具体的なデータ〉

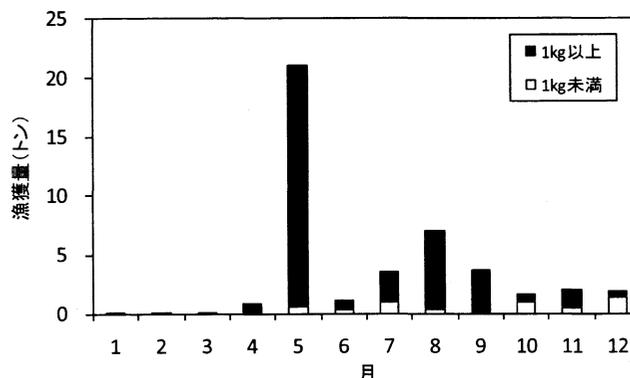


図1 日本海主要漁港におけるサワラの月別銘柄別漁獲量

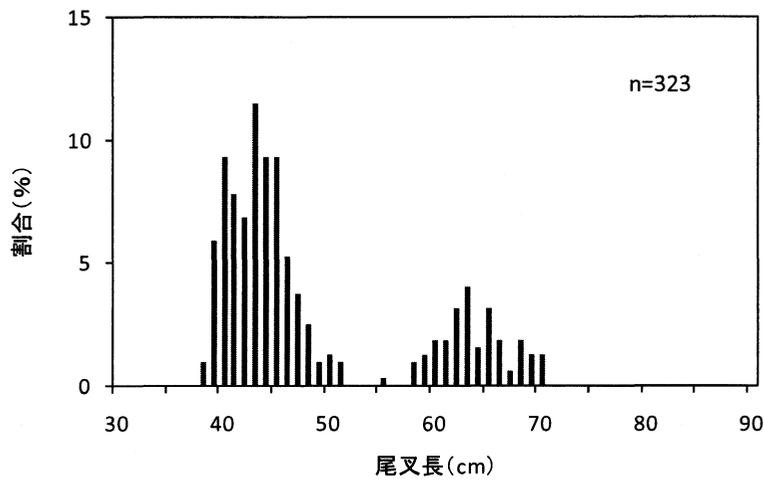


図2 サワラの尾又長組成
(平成21年10月～平成22年1月の集計値)

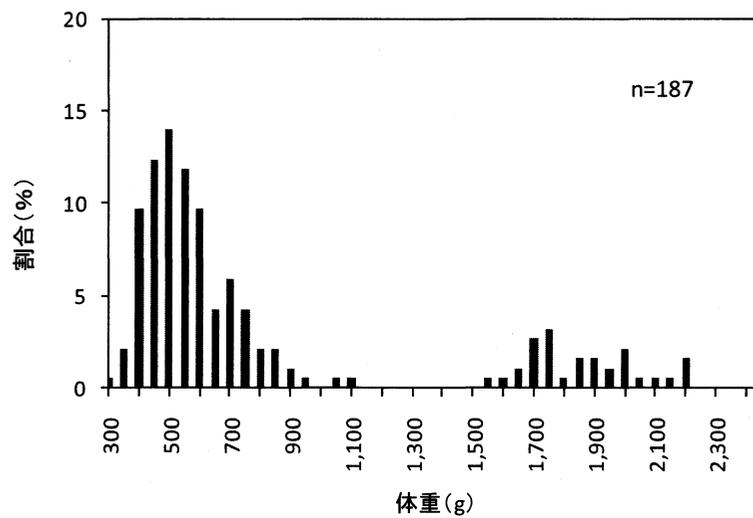


図3 サワラの体重組成
(平成21年10月～平成22年1月の集計値)

〈今後の問題点〉

なし

〈次年度の具体的計画〉

今年度と同様

〈結果の発表・活用状況等〉

平成21年度第1回サワラ研究推進会議での調査計画検討
平成21年度第2回サワラ研究推進会議での調査結果検討